

親が元気になることをめざして

子育て

ドキドキ
ワクワク
イキイキ



より良い社会をつくる努力
を子どもに見せる

家庭とは？ その2

子どもが家で身に付けたことは、生涯、ずっと生き続ける。

◆ 子育ては母親の仕事、そう思っているお父さんは要注意

家庭での父親の存在感が薄いことが指摘されています。母親だけに子育ての責任がゆだねられ、父親の理解や協力が無いままでは、母親の子育てに対する不安感や負担感が増したり、母と子の関係が密着し過ぎたりすることにつながる心配があります。

父親がもっと家庭の中での役割を積極的に担い、夫婦でしつけについてよく話し合っていくことが大切です。

そのためにも、夫婦はお互いに尊重し合い、子どもの前で相手をけなしたり、見下したりすることのないように気を付けましょう。

◆ 話せば分かるとは限らないが、話さなければもっと分からない

夫婦の間、親子の間での会話を増やしていくことが、家庭づくりのすべての基礎になります。本当は夫婦でも親子でも何でも話せる仲でありたいものです。

日々の会話を増やすには、できるだけ一緒に食事をし、お互いにその日にあったことを話すとか、一緒に家事をしたりスポーツをしたり、また、地域のボランティア活動に参加したりするなどの工夫をすることが大切です。

また、思春期になると、男女とも身体が急速に成長し始めます。子どもが必要以上の不安や戸惑いを持たないですむよう、身体の変化について話してあげることが大切です。

◆ 前向きな親の姿は、きっと子どもに届いている

ひとり親家庭や共働き家庭では、親が働きながら子育てをするため、ゆっくりと子どもと接する時間が少なくなりがちです。しかし、子を思い、より良い将来に向かって努力する親の姿は、しっかりと子どもたちの心に響いているはずです。

また、様々な悩みなどは、ひとりで抱え込まず、親類や友人の協力を得たり、地域の子育て相談窓口（子育て支援センターや市保健所）などの子育てを応援・サポートしてくれるシステムを積極的に活用したりしましょう。

◆ あなたの生き方が、子どもへの最高の教育になる

これまでは勤勉で従順な人が社会から求められましたが、これからは問題を解決するために自分で考え、工夫し、行動する、勇気ある社会人が求められます。

自分の会社の利益だけでなく、家庭や地域、そして社会全体にまで目を配り積極的に関われる人に育てるために、まず親自身がその大切さを理解し努力・挑戦することが大切です。

質問 「子供会や地区生徒会活動、地域の行事・ボランティア活動などに参加していますか」

回答 「いつも参加する」「だいたい参加する」 (%)

	平成 15 年	平成 20 年	平成 26 年
小学校 5 年生	68.6	86.1 ↑	83.5 ↓
中学校 2 年生	46.6	71.1 ↑	77.4 ↑

◎ 8 割を超える小学生が地域活動に参加している。中学生も 8 割近い生徒が参加している。

◎ 「地域のお祭りや運動会等への行事参加」、「資源回収活動」、「地域での清掃活動」、「除雪などの作業」など多様な活動に取り組んでいる。

盛岡市の子どもたちの「地域活動への参加」状況はどうなっているか？

『児童生徒の生活や意識の実態把握に関する調査』（盛岡市教育研究所、2015 年 1 月）から